「往還する人々の教育戦略」（２００８年度）

人間科学研究科　志水宏吉

（メンバー）

志水宏吉	大阪大学・教授	研究代表
林嵩和彦	福岡教育大学・准教授	ブラジル班リーダー
山ノ内裕子	関西大学・准教授	ブラジル班
鍛治　致	大阪成蹊大学・准教授	中国韓国班リーダー
中島智子	大阪プール学院・教授	中国韓国班
ベバリーアン山本	大阪大学・准教授	国際結婚班リーダー
渋谷真樹	奈良教育大学・准教授	国際結婚班
渡部留美	大阪大学・特任助教	国際結婚班

その他に大学院生１２名

（コンセプト）

日本におけるニューカマー外国人の教育問題を、「移民」研究を中心とした従来の枠組みではなく、「往還する人々」という新たな視点から解明する。具体的に対象グループとして設定するのは、上記の三者である。

具体的な方法としては、第一に保護者および子どもに対する聞き取り（保護者：来日の経緯、生活の組織化、「家族の物語」、教育戦略など。子ども：学校生活、家庭生活、将来展望、「自己の物語」、進路選択など）、第二に民族学校・インターナショナルスクールへの訪問調査である。

（２００８年度の成果）

裏面に記載した通り。２００９年に入ってからは、これまで各グループが行ってきた聞き取り実績をもとに、「共通部分」と「選択部分」からなる統一的なインタビュースケジュールを作成した（「保護者対象」と「子ども対象」の２種類）。

（今年度の予定）

今年度はそれにもとづいて、３つのグループで系統的な聞き取り調査を実施する予定である。合わせて、前年度は２校に対してパイロット調査的に実施した民族学校への訪問調査も、範囲を拡大し組織的に行う段取りとなっている。

（活動報告）

◆ ブラジル班

昨年度の準備期間を経て、本年度はブラジル人の保護者や子どもへの聞き取りを開始した。調査チームのメンバーが各地に散らばっており、なおかつ調査にかけることができる予算もないため、メンバーが個人の調査テーマを追求するなかで、少しずつインタビュー対象者の数を増やしている段階である。

３月には、ブラジル・サンパウロで在外研究をしている山本（院生）と、ブラジル訪問の機会を得た林嵜およびナカヤ（院生）が、保護者の出稼ぎにより日本での被教育経験をもつ子ども、さらにその保護者の聞き取りを行った。

トータルで２０名強の保護者、および２０名強の児童生徒のデータを収集。

◆ 中国韓国班

メンバーのうち、鍛治が「中国」を、中島が「韓国」を主として担当して、聞き取り調査の可能性を探ったが、担当者の多忙等の理由から、本プロジェクトに直接貢献しうるようなデータを、今年度は収集することができなかった。

行った調査活動の主要なものは、次の２つの韓国系学校への訪問調査である。

１）コリア国際学園中等部・高等部（09.1.13 訪問）

本校は、茨木市に設立された、創設１年目の新しい学校。「民族学校」と「インターナショナルスクール」という２つの性格を併せ持つ。授業の約３割が英語で。日本や韓国のみならず、英語圏への大学進学をも念頭に。

２）白頭学院建国幼・小・中・高等学校（09.2.20 訪問）

１９４６年創設の一条校。一つの敷地内に、幼稚園から高校までの校種が設置されている。韓国系の学校で、本国から派遣されてくる教員も。日本の学習指導要領に合わせた進学指導を重視。

◆ 国際結婚班

０８年夏に、山本がイギリスにおいて現地調査を行った。いくつかの学校・大学を訪れ、エスニックマイノリティや国際結婚家族に対するサポートサービスに関する情報を収集。また、関係者（NPO 職員をふくむ）への聞き取りを行い、イギリスにおける当該集団の教育をめぐる事情についての理解を深めた。

国内では、スタッフおよび院生がそれぞれの研究対象・課題に応じて、聞き取り調査を随時行った。その対象者数は、トータルで７０名ほどに及ぶ。